



四万十町
町内ぶら〜り散策

田野々・轟崎

とびろろぎ



旧 大正町の中心である田野々。そもそも田野々村は上山郷の頃からの中心地であった。田野々は、葛籠川（つづらがわ）と轟崎という地区を含んでいて、戦国末期の地検帳にはすでに、田野々村の中に津々羅川（葛籠川）とトロサキ（轟崎）が含まれたかたちで記載されている。今号では轟崎に焦点を当てる。

轟崎は、窪川方面から国道381号を走ってきた時の田野々への玄関口。四万十川が南に大きく湾曲しているところで、道の駅・大正や、石の風車の轟公園がある周辺である。取水橋（轟崎橋）を渡った対岸にも集落がある。この取水橋のすぐ下に、沈下橋の跡が残っている。そしてそこから20〜30m下流には、沈下橋ができるまで使われていた渡し舟の船着場跡が残っているのだが、これは知っている人にしかわからない。ポツンとある岩のひとつがそれではない。この岩には、当時、鉄の棒を挿していた穴が残っているのである。この船着場周辺の水田から、縄文時代早期のものと思われる土器などが出土していて、古代から人々が住んでいたことがうかがえる。

現在は国道381号を車が行き交っているが、その昔、大正時代から昭和初期くらいまでは「瀬里越」といわれる往還道が「メインストリート」であった。この「瀬里越」は、瀬里の集落の北側の山手から、現在の轟公園の北を通り、轟崎地区の北端に出る山道で、湾曲する轟崎の山側を抜けて田野々方面へと向かう「ショートカット」のルートである。

瀬里越の出入り口である「轟崎地区



この岩が船着場跡

の北端」とは、現在のコイン精米所辺りで、そのすぐ近くに椎の木の大木がある。地区の人々は「大椎（おおじい）」と呼ぶ。まだ瀬里越の道が使われていた頃、この大椎の横に「椎の木店屋」とも「大椎茶屋」とも「大椎の店屋」とも呼ばれた茶屋があった。ここでは蕎麦などの食事ができたらしい。また、戦後しばらく、大椎のすぐ横に、焚き木を商品化するための小屋があったそう。で、近隣で切り出した雑木を焚き木として、大阪方面に出荷していたのだという。

さて、轟崎という地名の由来であるが、これはこの辺りの川の様子にあるという。轟（ゴウ）と大きな音が鳴り響く、崎（サキ）山が突き出た端。この周辺の川の流れは、岩場が多く急である。水量が多い頃には、また大水の時などは、この急流が大きな音を立てていたことからこの地名がついたのであると聞いた。リバーパーク轟のすぐ前に「瀬里轟（せりとどろ）」という流れが急な瀬がある。ここは鮎掛けなどの絶好のポイントらしい。

町のうごき

(2月28日)	人口	前月比	出生	死亡	転入	転出
男	7,661	−18	男 4	17	10	15
女	8,380	−20	女 3	16	16	23
計	16,041	−38	計 7	33	26	38
世帯数	8,204	−16	(2月中の届出)			

窪川地域 11,388人 大正地域 2,226人 十和地域 2,427人

四万十川の 水質状況

適正值(mg/l)	
リン酸	春休み期間のため 調査休止
硝酸	
アンモニウム	
アニオン活性剤	
化学的酸素要求量	

調査：大正（吾川）
資料：四万十高校自然環境部

四万十町通信

2022.4月号
Vol.193（毎月10日発行）

●発行／四万十町企画課 ●印刷／窪川印刷

〒786-8501 高知県高岡郡四万十町琴平町16-17

☎(0880) 22-3124

FAX(0880) 22-3123



本文など内容の一部に見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを採用しています。